

平成29年度 経営学部 第3年次編入学試験【出題の意図】

〔経営学〕

1. マックス・ウェーバーが唱えた官僚制（ビュロクラシー）に関して、その組織構造の特性および官僚制がもたらすプラスとマイナスの結果に関する知識を問うている。とくに合理的組織の理想形と考えられた官僚制が有する「意図せざる結果としての逆機能」、すなわち訓練された無能、最低許容行動、顧客の不満足、目的置換、個人的成長の否定、革新の阻害といったことに言及することを求めている。
2. 個人の動機付けにおける内容理論として代表的な「欲求階層説」（マズロー）と「X理論・Y理論」（マグレガー）、およびプロセス理論として代表的な「期待理論」（ブルームやポーター&ローラーなど）についての知識を問うている。とくにマズローやマグレガーが想定する自己実現人モデルと異なり、期待理論が自己の期待利益を極大化しようとする合理的で計算高い人間像を想定していることを説明出来ているかがポイントである。
3. 重要な労働政策課題として盛んに議論されている「同一労働同一賃金」の実現に際して生じる課題について、日本と欧州の雇用慣行の違いを対比させながら説明出来ているかがポイントである。その際、①賃金制度における職能給（欧州は職務給）、②曖昧な分業や組織都合の拘束性の高い働き方、③流動性の乏しい労働市場や解雇権濫用法理など企業の強い雇用保障と補完的な労働法制といった、日本の雇用システムおよびその制度的補完性の諸特徴を説明出来ることを求めている。

〔会計学〕

問1 簿記の基本的な問題で、日商簿記試験では、主として3級の問題レベルを出題している。使用できる勘定科目を限定して、そこから選択させているので、どちらかと言えば、簡単な問題に属すると思う。1から5まで、それぞれ、手形取引、減価償却費、税金、発送費、当座、の問題であるが、奇異な取引は一つもない。

問2 現在の会計制度で取得原価主義と時価主義以外の評価基準を述べさせる問題で、具体例を挙げて述べるが、その方法の利点と欠点ができるように、きちんと説明出来ているかが、ポイントである。

問3 補助部門費の配分問題を、仕訳から元帳転記を問うた問題である。部門費の書き方が、元帳の勘定を見て、書けているかを問題にした。計算は全く難しくない。

〔マーケティング論〕

今回の試験問題は、受験者が、マーケティングの基本的概念を的確に理解するとともに、複数の概念を関連づけたり、概念と具体事例を関連づけたりして説明を行うことができることを確認することを意図している。

〔経済学〕

受験者が次の知識・能力を持っているかどうかを試す問題を出す。

1. ミクロ経済学、マクロ経済学のそれぞれの基礎的知識を持っている。
2. 1.に言うミクロ経済学、マクロ経済学の基礎的知識に基づいて、経済現象の経済分析ができる。
3. 2.に言う経済現象の分析を、モデルの運用によって行うことができる。

〔数学〕

1. 線形空間の理解
2. 最適化問題の解法の理解
3. 関数の連続性の理解

〔小論文〕

本題は、マクドナルドが世界標準で適用している、QSC&V (Quality: 品質、Service: サービス、Cleanliness: 清潔さ、Value: 価値) という経営理念の有効性を理解した上で、日本進出にあたり、フランチャイズ方式ではなく、直営方式がとられたかを説明することを求めている。経営戦略に関して一般向けに書かれた平易な文章であり、かつ身近な話題が記述されているが、成功要因を記述するにあたり、自分としては、この要因が一番重要だというような思いこみの強い答えではなく、多岐にわたる成功要因をどのように整理して、総合的、論理的に記述しているかを問うものである。